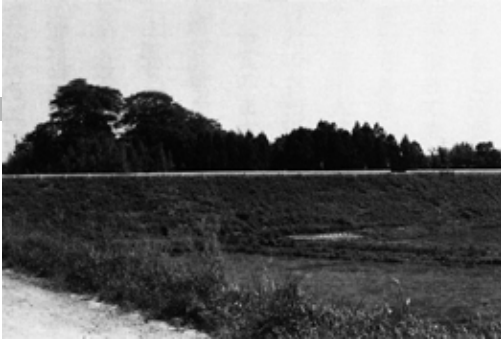


# 祝園七森

庄田りとし



木津川堤から柞ノ森を望む

私は大正十四年に生まれ、昭和二十三年に精華町へ嫁いで来ました。以来、ずっと祝園の西北区に住んでいます。

私の住んでいる祝園には、その昔、「祝園七森」と言う七つの森があったそうです。

七つの森とは、「柞ノ森」「出森」「幸ノ森」「若森」「天神ノ森」「弁天森」「藤小森」のことだといわれています。

が、今では「柞ノ森」「出森」「幸ノ森」「若森」の四つだけが地名として残っているだけで、「天神ノ森」「弁天森」「藤小森」の三つはあまり聞かなくなっていました。

偶然、祖父（庄田藤左衛門・安政元年十月十五日出生）が明治八年頃に村の古老たちから聞いて「祝園七森」について書き残した帳面がありますので、それにそって記してみようと思います。

○柞ノ森

祝園小字柞ノ森一番地で、氏神様（祝園神社）をお祭りしてある地です。実に今も森らしさが残っているのはこの柞ノ森だけです。

○出 森

祝園小字出森九ノ三番地で、祝園神社より昔の郡山街道を南へ行ったところです。西北区と東区の境界付近にあり、祝園神社の所有地で、現在、「いごもり祭」のときに行われる「綱引」に使用した竹をトンド（燃やす）する場所です。

○幸ノ森

祝園小字十ノ坪十三番地の横にあつたといわれています。現在「いごもり祭」のとき、「御田植」の儀式が行われるところです。

○若 森

祝園神社の北方「精華・山城線」横の用水川を隔てて北、昔の郡山街道の東側で、明治の初年に開発して、今では田地となっています。

### ○天神ノ森

祝園小字島ノ前十八番地の岩井初美さん宅南側の、岩井さん所有の畑地の東の隅に、昔、木屋の木があり、周囲が藪で荒らされていたが、明治維新のころ開発されたそうです。現在では畑となっています。

### ○弁天森

祝園小字榊ヶ坪十二番地の田尻茂さん宅の乾の方角に当たる地にあった小森で、これは明治の初期には当主が木を植えて、その形跡といっておられたが、明治末期にはその跡も無くなっていたそうです。

### ○藤小森

祝園小字丈ヶ辻横枕、「西北—北稲線」の道より北側で、西北の一番西の地。現在家が建っている北のほうで明治初年のころには三本の立木があり、これも私有地の片隅にあったようですが、開発されて、今はその形跡も無くなって田地となっています。

以上が、「祝園七森」と、いわれていたものです。

また、古来言伝えによりますと、出森には良辨僧正の見返りの大きな松の木が前出の出森より少し東の地にあったが、明治初期のころに枯れたので、その跡へ柿の木が植えられたそうです。

祖父は記録を残すために、明治四十三年に、奈良東大寺塔中円光大師堂の東の庵に住んでいる菅沼という和尚に由来を聞いたが、東大寺では、その由緒が判明しなかったそうです。今では柿の木も無くなっています。出森よりすこし東へ入った所に在ったそうです。

それから、祝園北には昔三つの寺があったが廃寺になりました。薬師寺（真言宗）、極楽寺（浄土宗）、半堂寺（宗旨不明）です。

薬師寺は「祝園神社奥ノ院」「春日大明神奥ノ院」「神宮寺」とも呼ばれた寺で、明治九年に廃寺となったそうです。今は跡形もなく田、畑、藪となっています。その辺りに薬師と地名だけは今も残っていますが、薬師如来は現在、中区の常念寺に安置されています。

極楽寺は「祝園神社奥ノ院」と、呼ばれていましたが、この寺も明治十一年に廃寺となっています。今は祝園神社社人宮城氏の墓のみが寺跡を物語っています。

半堂寺は、薬師寺より郡山街道を数百メートルほど北へ行った所、街道西側に流れる江川のさらに西側にあつたそうですが、この寺はいつ頃廃寺となつたのか分りません。今はその辺りに半堂寺と地名だけが残っています。明治初期にはただ茶店だけが残っていたそうで、祝園から近所へ嫁いでこられたお婆あさんが若い頃にこの茶店におられたと聞いていました。昔は郡山街道周辺には宿屋や茶店があり賑わっていたでしょう。

以上、祖父の遺した帳面にそつて書いてみました。

それにつけても、私がこの地へ嫁に来た頃とは何かにつけて変わってしまいました。これからも宅地化や開発の波が押し寄せ、ますますの変化が予想されます。

私の孫やその子供たちの時代にはこの精華町がどのようになっていくのか私には想像がつきません。でも、その子供たちが祝園には昔、「祝園七森」と呼ばれた森や「見返りの松」「三つの廃寺」があつたんだということをこの私の拙文から知り、それが郷土愛を育む手助けにでもなれば幸いです。